

第6学年〇組 学級活動(1)指導案

日 時 令和5年〇月〇日(〇) 第〇校時

場 所 6年〇組教室

指導者 〇〇 〇〇

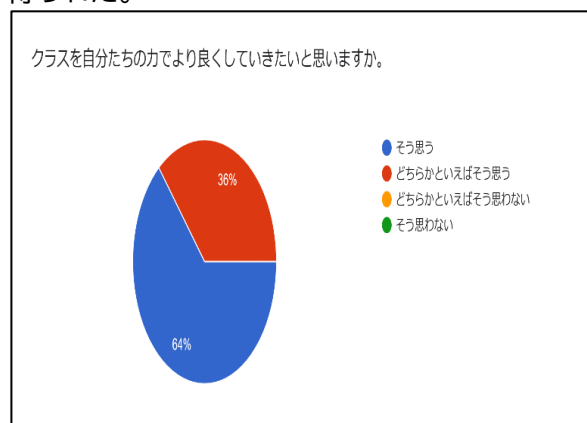
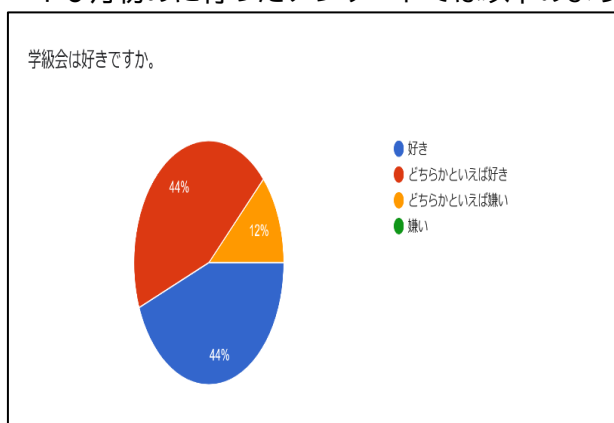
- 1 議題 「卒業に向けてよりよいクラスにする集会をしよう」
(ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決)

2 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童はとても活発で学習や行事に対して前向きな児童が多い。休み時間は男女や学級の垣根を越えて、校庭で元気よく遊ぶ姿も多く見られる。一方で、人の話を最後まで聞くことや、授業と休み時間の切り替えなど、生活規律に関する面で課題もある。また、その環境に対して学級を今よりも、よりよくしていきたいと考えている児童も多い。

10月初めに行ったアンケートでは以下のような結果が得られた。



「学級会は好きですか」の質問に対して約90%の児童が肯定的に捉えている。肯定的な意見としては、

- ・みんなで意見を言い合って自分たちで決めることができるから。
- ・自分とは違う意見を出し合うことで、みんなで理解し合えるから。
- ・みんなで何かを作り上げるのが楽しいから。
- ・みんなで話し合って、決められると気持ちがいいから。
- ・クラスの仲が深まって、まとまると思うから。
- ・先生の力を借りないで決め事を行うことができるから。

などがあげられていた。一方で、否定的に捉えている児童(約10%)は以下のような意見をあげていた。

- ・意見がぶつかりあって、バチバチする感じがするから。
- ・話合いがうまくいかないとふざけ始める友達がいるから。
- ・話合いが進まなくなるとダラダラして面倒くさく感じるから。意見をひとつにするのが難しいから。
- ・意見を発表するのが苦手だから。

また、「クラスを自分たちでより良くしていきたいと思いますか。」の問いに対しては、学級全員が肯定的な回答をしていた。以上のことから、本学級の児童は、自分が所属するクラス(集団)をより良くしていきたいと考える児童が多く、学級会に対しても意欲的に捉えている児童が多いことが分かる。しかし、具体的な場面となると、発言する児童が偏ってしまうことや、話合いの目的を意識して児童だけで合意形成まで到達することが難しい状況がみてとれる。

これまでに学級会は6回開催した。第1回学級会では「6年〇組よろしくね集会をしよう」、第2回学

級会では「学級の合言葉を決めよう」、第3回学級会では「クラスキャラクターを作ろう」第4回学級会では「1年生と仲良くなろう集会を開こう」、第5回では「2学期もがんばろうの会をしよう」、第6回では「学年の仲が深まる学年集会を開こう」が議題として選定、決定され話し合いを行ってきた。話し合いを重ねる中で、「〇〇なところが提案理由に合っている」「〇〇にはこんなよさがある」など、意見の根拠を大切に話し合いができるようになってきた。しかし、自分の意見を押し通そうとする児童が中心の話し合いになってしまったり、少数派の意見を尊重しようとするあまりに話し合いがまとまらなくなったりして、時間内に合意形成に至らない学級会が多くあった。めあてに沿って話し合うことや、最終的に全員で当事者意識をもって「決める」ことを意識できている児童が少ないと感じている。

以上のことから、全員が議題のめあてに向かって話し合い、よりよく合意形成ができるように、子供たちにとって必要感のある議題を選定し、一連の学習過程を意識して繰り返し指導を行っていく必要がある。

（２） 議題選定の理由

本議題は、卒業に向けて学級をよりよくしていきたいという考えから出されたものである。10月初めに学級の現状を見つめ直し、課題を出し合い、これからより良い学級にするために自分がしていくことを自分で決める時間を設けた。その流れを受けて、クラス全体として取り組めることはないかと多くの児童が提案していた。そこで、計画委員と話し合った結果、改めて友達を深く知り、みんなで協力し合ってよりよい学級をつくるためにできることを話し合うことが決まり、クラス全体の承認を受けて本議題が選定された。この他には「1年生が学校をより一層好きになる集会をしよう」「2校親善大会がんばったね集会をしよう」といった議題も出されていたが、今回は本議題の取組をすぐに行いたいという声が多く聞かれたため、本議題で話し合い、実践していくこととなった。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をより よくしようとする態度
みんなで楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。合意形成の手順や深まりのある話し合いの進め方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について多様な意見のよさを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、見通しを持ったり振り返ったりしながら、自己の良さを発揮し、役割や責任を果たして集団活動に取り組もうとしている。

4 事前の活動

日時	児童の活動 ○計画委員会 ●全員の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
○月○日 （○） 業間休み	○出された議題を確認し、選定する。	・児童の自発的、自治的な活動とすることができるよう、学校として児童に任せられないことを明確に示す。特に金銭面、安全面については配慮する。	◎学級生活をよりよくするために、進んで議題を考えたり、選んだりしようとしている。【主】（提案カード、観察）
帰りの会	●議題を決定する。	・計画委員会の提案のもと、学級全員で決定することを改めて確認する。 ・全員で話し合う価値（必要性）があることを納得することができるよう、必要に応じて補足説明を行う。	
○月○日 （○） 業間休み	○活動計画を作成する。 （提案理由、めあて、話し合うこと、決まっていること、役割分担、学級	・提案者の思いや願いもふまえて、学級の児童一人一人の必要感や切実感	◎計画委員会の役割、話し合いの進行の仕方等を理解している。

	会ノート原稿作成) ○学級活動コーナーに掲示する。	が高まるように提案理由の明確化を図ることができるよう助言する。 ・日時や場所などの条件は教師が設定する。 ・前回の課題を改善できるような話合いにすることができるよう助言する。	【知】(活動計画、観察)
帰りの会	○話し合うことを全員に知らせる。 ●学級会ノートに自分の考えを記入する。	・提案理由に沿った理由を添えて意見を書くことができるよう、状況に応じて個別に支援する。	◎提案理由や話合いのめあてに沿った自分の考えを書いている。 【思】(学級会ノート)
○月○日 (○) 業間休み 昼休み	○学級会ノートの整理、確認をする。 同じような意見をまとめていき、6つ程度に絞る。決まったものを短冊に書く。 ○思考の視点を整理して色付きの短冊に記入する。	・出された意見を提示する際、見やすく、分かりやすくなるような分類整理を行うことができるよう、分類整理の視点を示すなどの助言を行う。 ・学級会前に出された意見について事前に掲示した上でイメージの共有化を図る時間を設け、そこで生じた疑問は解決できるよう、状況に応じて支援する。	
○月○日 (○) 業間休み	○学級会進行原稿の用意、板書に使う短冊等の用意をする。	・学級会を月に1回以上行っても司会の機会は1回程度しかないので、進行の見通しが立つようなりハーサルの時間を短時間でも設定する。また意見の短冊を黒板に掲示することで、黒板記録も短冊の見やすい字の大きさや貼り方を確認することができるようにする。	
○月○日 (○) 業間休み	○計画委員全員で役割の最終確認、決め方の見通しをもつ。 ●学級会ノートを配り、事前にまとめた案を共有する。	・話合いが上手く進まないことも想定し、対応策を一緒に考えておく。 ・1人1人ノートに励ましの言葉を記入した上で返却することで、話合いの見通しが立つようにする。	

5 展開

(1) 本時のねらい

卒業に向けて学級の仲を一層深め、よりよいクラスになる取組を企画することができる。

(2) 児童の活動計画（別紙参照 ※当日お渡しさせていただきます。）

(3) 教師の指導計画

活動の計画	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
1 はじめの言葉	・チャイムがなる前に机の移動や、板書の準備を完了するようあらかじめ伝えておく。 ・自分のめあてが言えるように事前に指導する。	◎理由を明確にして考えを伝えたり、自分と異なる意見も受け入れたりしながら、集団としての目標や活動内容について合意形成を図っている。 【思・判・表】 （観察・学級会ノート）
2 計画委員の紹介		
3 議題の確認		
4 提案理由の説明	卒業に向けてよりよいクラスにする集会を開こう	
5 決まっていることの確認	・提案者の思いや願いが伝わるように、キーワードを提示したり、大事な部分を色分けして示したりすることができるよう事前に一緒に準備をしておく。	
6 話合いのめあての確認	【決まっていること】 ・〇月〇日（〇）〇時間目に行う。 ・細かい役割分担は翌日に行う。 （その他、当日に向けて整理する予定です。）	
7 話し合うこと① 「何をするか」	・全員でめあてを言うことで、確認できるようにする。	
話し合うこと② 「会全体の工夫」	・話し合うこと①は「くらべ合う」段階から進めることができるよう、事前に短冊を掲示しておく。	
話し合うこと③ 「役割をどうするか」	・話合いがねらいや提案理由などから大きくそれるなどうまく進まなくなったときには、一度話合いを止め、提案理由のキーワードを再度意識することができるよう助言する。	
8 決まったことの確認	・児童に任せることができない内容（安全面、金銭面）が出た時は、教師が扱いを明確にする。	
9 振り返り	・話し合うこと③では、話合いで決まったことを受けてどんな役割が必要かを確認する。時間が余れば役割分担まで進める。	
10 先生の話	・自分や友だちのよかったところを学級会ノートに記入し発表する。	
11 おわりの言葉	・終末の話では、①合意形成したことへの価値付けや集団への称賛、②今後の課題、③計画委員へのねぎらい、④今後の見通しや実践に向けての意欲付け等について簡潔に述べる。	

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】（評価方法）
○月○日（○） 休み時間	・決まったことを学級活動コーナーに掲示する。	・決まったことを分かりやすく書くように助言する。	◎活動のめあてを意識しながら友達と協力して取り組んでいる。 【思・判・表】（観察）
同日 学活の時間	・係の役割分担をし、担当ごとに活動計画を立てる。取り組めるものがあれば、活動を始める。	・係は必ず複数名で担当し、協力して活動できるように助言する。	
○月○日（○）～ ○月○日（○） 休み時間	・係ごとに準備をする。帰りの会などで経過報告をする。	・活動の途中経過を報告しあい、活動意欲を継続できるように助言する。	◎活動を振り返り、自分のがんばりや友達のがんばりに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 【態】 （振り返りシート、観察）
○月○日（○） ○時間目 帰りの会	・集会終了後、振り返りを行う。	・振り返りは、事前・本時・事後の一連の学習過程を振り返って記入するよう助言する。また、感想の記述にとどまらないよう、「今回は～～をめあてで行ったけれど、」と、振り返りの視点を明確にしたうえで記述できるよう支援する。	

7 備考 男子○名 女子○名 計○名